

立命館大学建設会

発行所
立命館大学建設会事務局
〒525-8577
滋賀県草津市野路東1-1-1
立命館大学理工学部
環境都市系事務室内
平成28年8月

第30号

会長挨拶

建設会会長

山崎 糸治

昭和五十年卒



建設会会員の皆様方におかれましては、平素より建設会の活動・取り組みにご支援、ご協力を頂き有難うございます。

建設会会長に就任以来早いもので二年近くが経過し、この間、各支部の総会にも参加をさせて頂いておりませんが、各支部の役員の皆様方のご努力により、多くの支部で若い卒業生の参加が増えてきており大変喜んでおります。また、今年の三月には、昨年に引き続き環境都市系三学科の卒業記念パーティにも出席させて頂き、夢と希望に満ち溢れた卒業生の前途

を祝い、どの分野に進もうとも立命館大学の卒業生であるという誇りを忘れず、また、同期の仲間達との絆・繋がりを大事にして欲しいとの言葉を贈らせて頂きました。

さて、東日本大震災から五年が経過し、その復興に向けた取り組みが国を挙げて未だ続く中、昨年9月には台風十七号、十八号に伴う関東・東北豪雨により栃木県・茨城県を流れる鬼怒川の堤防決壊・溢水による大水害が発生し、そして今年四月には、熊本県を中心にM六・五の前震、二日後のM七・三の本震で、いずれも震度七

という大地震が発生するなど、大規模な自然災害が相次いでおります。

今回の大水害や熊本大地震で大変な被害を受けた各地の復旧や防災工事には、国や地方自治体、建設業界等に携わる多くの土木・建築技術者が不眠不休で全力を挙げて取り組み、世界が驚くスピードで鉄道や道路、上下水道等のインフラを復旧しております。その中には多くの立命館大学の卒業生の方々が様々な立場で携わっておられることと思います。熊本出身の一人として心から御礼申し上げます。

しかしながら、マスコミ等での活躍が報道されるのは自衛隊やボランティアの活動が中心であり、相次ぐ不正工事や工事中の事故、あるいは談合問題などの不祥事が続く建設業界、そしてそこに携る土木・建築技術者を評価する声は

ほとんど聞かれないのが実情であります。

わが国では、これまでから大規模な自然災害が発生するたびに都市基盤の整備や防災対策の遅れと公共事業の必要性が声高に指摘されておりますが、必要な公共事業費は削減される一方であり、平成二十七年度の公共事業費は約六兆円と十五年前に比較しても六割程度となっております。

今こそ、建設業界だけでなく、土木学会や大学、地方自治体など産官学が連携し、「震災復興」と「次なる巨大地震や異常気象に備えた国土の保全対策」、そして、「老朽化したインフラ対策」のため、公共事業費の大幅増額を声高に国民に向けて発していくときであると思っております。併せて、わが国の災害現場やインフラ整備等で技術者としての誇りを胸に活躍す

る土木・建築技術者の姿やその成果を国民に向けてしっかりと広報し、若い世代が誇りと感動を持つる仕事として土木・建築の世界に憧れるような取り組みを産官学が連携して進めることも大事であると思っております。

最後になりますが、建設会では、今年の十月に京都において総会を開催する予定となっております。全国の多くの会員の方々に総会に参加して頂くことで、大先輩から若い世代までが一堂に介し、立命館大学の絆とネットワークをしっかりと繋いでいくことができるものと期待をしておりますので、どうぞよろしくお願致します。

結びに、建設会会員の皆様方のご健勝・ご活躍を心よりご祈念申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

学系の近況について

環境都市学系 学系長

都市システム工学科

里深

教授

好文



建設会会員の皆様方におかれましては、日頃より環境都市学系の教学ならびに学系同窓会活動に対しまして、手厚いご支援とご協力を頂いておりますこと、心より御礼申し上げます。

BKCの中心部に近いトリシアに環境都市学系すべての研究室が集まってから二年余り経ちました。研究室のただけではなく建物の内外に設けられた多様なスペースを

利用して多くの学生が交流し、充実した学生生活を楽しまれているように思われます。

学系教員の移動につきまして、都市システム工学科教授の塚口博司先生、環境システム工学科講師の石森洋行先生、建築都市デザイン学科准教授の堀口徹先生、同学科助教の加戸啓太先生が二〇一六年三月をもって退職されました。また、二〇一五年九月に

は都市システム工学科のPHANNGOCMYTY助教が退職されています。一方、二〇一六年四月より都市システム工学科准教授として川崎佑磨先生が着任され、現在、二〇一七年の春にさらに多くの新任の先生方を迎え入れるべく準備を進めているところで

す。二〇一七年の各学科の入学定員は都市システム工学科九十一名、環境システム工学科七十五名、建築都市デザイン学科九十一名と増加し、これまで八十名であった環境都市系大学院博士前期課程の定員は百二十名にまで増やしています。OB・OGの皆様のご協力もあって学部・修士学生の就職状況はとて良好ですが、一方で大学

院博士後期課程へ進学する学生数が伸び悩んでいることが課題です。

学系の大きな変化としては都市システム工学科と環境システム工学科の再編が挙げられます。二〇一八年度に両学科を一つに再編し、新たに「環境都市工学科」を立ち上げる予定です。これまでに都市システム工学科、環境システム工学科、建築都市デザイン学科の三学科からなる学系の名称を「環境都市系」としてきましたが、学科の再編に合わせて「都市システム系」と改めることになりました。環境・防災・都市創成といった分野において活躍できる人材の育成を図るための体制を整え、更なる学系の発展を目指します。

建設会の多くの先輩方から衣笠を懐かしむお話しをお聞きするたびに、すっかり学科・学系の姿を変えてしまったことに関して申し訳ない思いにかられます。しかしながら、たとえキャンパスや建物が変わろうとも、立命館の環境都市学系の教育や研究が目指す方向には何ら変化はないのだと信じています。建設会会員の皆様が母校を語る際に胸を張れるよう、教職員と学生一体となって精一杯努力してまいりますので、今後とも変わらぬご支援をよろしくお願致します。

会員の声

立命館と私



岐阜県建設会会長
野崎勝己
昭和五十二年卒

私は、昨年に岐阜県建設会会長に就かせていただいたばかりの新米会長です。どうぞ宜しくお願い致します。既に当会報で先輩会員が紹介されましたように私の会は平成十九年に設立した支部で、私は発足時から事務局を務めてきました。設立の折に、事務局の任について会の発起人の川嶋先輩、可児先輩が、会社におみえになり社長に依頼をされました。当時、会社の先輩が立命の岐阜県校友会事務局長をしており、同じ会社ばかりで役を受けるのはどうかと懸念していたのですが、社長の小川が「どんなやれ、お引受けしろ」と背中を押してくれました。「もっと視野を広げろ」ということだったのでしよう。社長は立命の経済を出ており縁を感じました。

さて、岐阜県建設会は毎年会員名簿を作成し、三千円の年会費を納めていただいた方に配布しています。名簿には現在、二百五十六名を記させていただいています。名簿を見て、仕事などでお会いする方が同窓であることが分かっているだけで話の切っ掛けができ、話も弾みます。個人情報保護の点から名簿作成は難しくなっています。建設会本部でも是非、続けて

いただいたものです。ところで、会員には他学部のご出身の方が十名ほどみえて、毎年開催する総会へのご出席率は抜群です。学部を超えた情報交換ができる点で、立命館が総合大学で良かったと思います。無論、総会では建設系学科ご出身の先輩方から名簿だけでは知り得ない貴重なお話が聴けますよ。

北海道支部は、昭和六十二(一九八七)年三月、先達の皆様のご尽力により会員相互の親睦を目的に設立されました。第一回総会は札幌市内のホテルにて参加者十二名で開催され、私もお声掛けをいただき設立メンバーの末席にて、しばらく口にしていなかった校歌を隣室に聞こえるほど大声で唄ったことが、懐かしく思い出されます。

現在、名簿に掲載されている会員数は六十四名。設立当時の五十三名から多くは増えていませんが、卒年が平成になってからの会友が四割ほどになり、時代の移り変わりを感じます。

また、カレーを食べると付いてくるのが茨木市観光協会が作成した「安威川ダムカレーカード」。これは、「ダムカード」と同様に全国に数種類が存在し、コレクションすることのできるものです。裏面にはダムカードを真似てダムの解説ならぬカレーの解説があり、「パセリの広場から見上げるライスフィールダムはドライカレーで築造」などとユニークに記載されています。



北海道支部支部長
城戸 寛
昭和五十五年卒

本会報への寄稿は、三度目となりました。最初は、平成十三(二〇〇一)年の第十五号に「H I R O B A o f D r e a m s、札幌ドーム」と題して、二〇〇二年 F I F A ワールドカップの開催に向けて開業したばかりの札幌ドームの紹介と第十五回総会など支部の近況を報告いたしました。

この六月に二年振り支度総会を開催することができましたが参加者数は十名に止まりました。次代を担う方達にもご参加いただける会にしなければと痛感しているところです。設立から三十年、総会後の懇親会中締めはもちろん校歌です。

職を機に、北海道の防災教育アドバイザーとして、ボランティア活動のフィールドを広げることになりました。この活動、大切に取り組んでいくことにしています。ライフワークとして、シビルというよりは、シニアエンジニアとして。

もう一つの特徴は、女子大生が地域と連携してダムカレー開発に携わったことです。(これもテレビで言うて欲しかったなあ。昨年十月の完成披露会では女子大生と一緒に試食しました。おいしかった!) 梅花女子大学食文化学部の学生が企画し、例えば、堤体はコンクリートではなく岩石と土のロックフィルだから、白ごはんではなくドライカレー(白黒の写真ではわかりにくいですが、黄色でインパクト大です!)など。

北海道支部設立三十周年を迎えて



北海道支部支部長
城戸 寛
昭和五十五年卒

二度目は、平成十九(二〇〇七)年の第二十一号に、現在、建設会幹事長の深川良一先生をお招きした第二十回総会の開催報告をいたしました。節目ということで、建設会事務局に相談したところ、先生をご紹介いただき、大変ご多忙の中、ご講演をいただきましたこと、あらためて紙面をお借りしお礼申し上げます。

今朝(六月十三日)の読売テレビ「す・またん&ZIP!」で安威川ダムカレーが紹介されました。関西ローカルなので、他圏の方にお伝えできなかったのが残念ですが……さて、ダムカレーとは、ライスを堤体に、カレーを貯水池に見立てて皿の上に盛り付けたもので、全国に七十種類以上あると言われています。



ダムカレーに負けないダムづくり



建立会会長
長井順一
昭和五十八年卒

また、カレーを食べると付いてくるのが茨木市観光協会が作成した「ダムカード」と同様に全国に数種類が存在し、コレクションすることのできるものです。裏面にはダムカードを真似てダムの解説ならぬカレーの解説があり、「パセリの広場から見上げるライスフィールダムはドライカレーで築造」などとユニークに記載されています。



平成 28 年度総会記念写真(前列右から二人目が筆者)

ら、現場対応や地元対応等に追われて
います。また、阪急茨木市駅から
六kmという市街地に近い立地や豊か
な自然環境に恵まれていることか
ら、土木屋らしからぬダムカレリー
な地域づくりや環境保全にも精力的
に取り組んでいます。特に、安威川
ダムが、上流のダム建設に伴い移転
した地元の方、下流のダムの恩恵受
ける方等多くの方が集い楽しんで
らうフィールドとなるようダムが完
成してからでなく今から動く必要が
あると考え、行政だけでなく地元、
NPO、企業等呼びかけ将来の担
い手となるファンをつなぐ取り組み
として「安威川ダムファンづくり会」
を立ち上げました。

愛知県の山車祭り



愛知県建設会
林 政信
昭和五十九年卒

愛知県支部は、昭和五十年の発足
以来の名称であった「愛知県衣笠会」
を改め、平成二十八年四月一日よ
り「愛知県建設会」といたしました。
理工学部が衣笠キャンパスより琵琶
湖草津キャンパスに移転し二十年以
上経ち、「衣笠」の名前になじみ
のない校友が増えてきたことが理由
です。新生「愛知県建設会」のさら
なる活性化をめざし活動を行って
いきます。

今回は、愛知県の「山車」文化を
お伝えしたいと思います。愛知県に
は百五十四の山車祭りがあり、日本
全国の山車の数およそ五千両のうち
四百十八両があります。さらに、ユ
ネスコ無形文化遺産登録へ向け日本
が提案中の「山・鉾・屋台行事」の
三十三件のうち愛知県は全国最多の
五つが登録されており、全国でも指

折りの山車祭りが盛んな県です。愛
知県の山車は、台車型の曳山が多
く、形態は、「名古屋型」(二層、外
輪)、「犬山型」(三層、外輪)、「知
多型」(二層、内輪)に大別できま
すが、尾張津島天王祭の「巻藁船
(まきわらぶね)」、「車楽船(だんじ
りぶね)」といった船の山車もあり、
多種多様です。山車祭りの魅力のひ
とつは、山車の美しさにあります。
山車には、木工、金工、彫刻、漆工、
染め、織りなど多くの技が活かされ
ており、技術・芸術の集大成とも言
えます。また、愛知県の山車には、
からくり人形を載せているものが多
く、からくり人形も地域により特色
があります。例えば、知立まつりの
山車文楽と山車からくりの人形芝居
が同じ山車の上で演じられるような
珍しいものもあります。私は愛知県
小牧市の出身で、小牧の秋葉祭に
は、「唐子車(からこしや)」、「聖王
車(せいおうしや)」、「湯取車(ゆと
りぐるま)」、「西王母車(せいおう
ぼしや)」の四両の山車が揃います。
私はそのうちのひとつ「湯取車保存



会」に所属しており、からくり人形
を操ることも行っております。湯取
車のからくりは、「笛吹き」、「太鼓
打ち」、「巫女」、「神官」の四体のか
らくり人形が、湯取神事を行う様を
演じ、巫女が神官と四方に挨拶をし
た後、釜の前に立ち両手に持った笹
を振ると、釜から「湯の花」を表す
紙吹雪が吹き上がる場面が見どころ
です。山車からくりでは、からくり
人形の精巧な動き、美しさ、物語性
を楽しむことができます。また、山
車祭りの魅力は、山車やからくり人
形の美しさだけでなく、山車巡行に
かかる祭人たちの心意気にもあり
ます。山車の豪快な曳き廻し、山車
の向きを変える「どんでん」、「車切」
が祭人たちの最大の見せ場と言えま
す。そして、祭囃子の季節の訪れを
告げ、郷愁を誘う笛や太鼓の音色も
山車祭りの魅力のひとつです。

広島、春雑感、支部総会



広島県支部代表幹事
福馬啓人
昭和六十一年卒

愛知県は、京都、大阪、兵庫、滋
賀に次いで五番目に校友数が多い県
です。旧知の方も多いのではないか
と思います。愛知県を長く離れてい
る方、また一度も愛知県を訪れたこ
とがない方も一度愛知県を訪ねて
いただき、旧交を温めていただくと
もに、山車文化に触れ、その魅力を
満喫していただければと思います。

去る五月二十七日(金)、広島は
オバマ大統領の歴史的な訪問の日を
迎えました。厳重な警備体制・交通
規制が行われ、右翼の街宣車も見ら
れない静けさに反して、いたるところ
で、大統領の進入ルートや時間な
どの噂が飛び交い、街中が興奮して
いました。
広島出身でない私にとっては、毎
年八月六日の職場での黙祷など、広
島特有の行事に、ある種の戸惑いを



感じてしまうこともあります。今
回は特別な感慨がありました。
さてその一週間後の六月四日
(土)、深川先生を迎えて、ホテル
メルパルク広島で、広島県支部第
四十九回定期総会が開催されました。
今回は、中央復建コンサルタン
ツ(株)代表取締役社長・兼塚卓也様
(五十七卒)をお招きし、ご講演を
していただけることになったので、
そんな街の喧騒もどこか遠く感じら
れ、総会の行方に、大変気をもん
でおりました。
しかしお陰様で、総会には四十九
名の方がお集まりいただき、例年以
上の盛会となりました。兼塚社長の
ご講演は素晴らしく、広島県支部総
会にしては珍しく、若い人の参加が
多かった今回としては、将来のため
になったのではと思っております。
また深川先生のお話で、「東日本
大震災」「熊本地震」などの社会情勢
の下、学生の社会基盤整備に関する
関心が高まり、彼らが使命感を感じ
ているということ伺い、人材不足
の建設業に、わずかな光を感じるこ
とが出来ました。
これからも、そういう学生がやり
がいを感じられるような、建設業界
の人であるべく努力していきます。

立命館の益々の 発展を願って



福井県衣笠会
小林泰三
平成十年卒

思い返すこと二十二年前の一九九
四年春、BK C開学とともに、私の
キャンパスライフが始まりました。
何事も最初が肝心と言いますが、入
学式に向かう道中、湖西線に乗って
しまい、大幅遅刻するというところ
からのスタートでした。最初の最初
につまずきましたが、その後四年で
しっかり卒業し、修士・博士・研究
員のトータル十年間を立命館にお世
話になりました。その後、九州大学
を経て、五年前から福井大学にて地
盤工学の研究・教育に携わっていま
す。十年という長い期間を立命館に
お世話になり、それを土台に今の私
があるの言うまでもなく、立命館
に対する母校愛は人一倍強いのでは
ないかと思っております。BK Cを出
たのが二〇〇四年。それから十二年
しか経っていませんが、キャンパス
の風景、学科・教員構成など大きく
様変わりしたようです。在学当時も
大学改革の雄として評判になってい
ましたが、その後も発展し続ける立
命館の底力に卒業生ながら感服する
次第です。

他大学を経験して、立命館では当
たり前でも、他では違うことが多く
あることに気づかれます。立命館
の特徴のひとつは、OB / OG の
多さと活躍の場の広さにあるうかと
思います。全国から学生が集まって
くるというのも特徴でしょう。大学
を信号処理装置に例えるならば、入
力・出力ともに「ダイナミックレン
ジが広い」ということになるでしょ
うか。最近よく耳にする「ダイバー
シティ(多様性)」にも通じるることか
もしれません。土木を教える教育者
としては不謹慎かもしれませんが、
立命館大学がこれからも個性豊かな

ダイナミックレンジ/ダイバーシ
ティを涵養する、大きな器であり続
けて欲しいと思います。

活躍の場の広さという点では、当
時、馬好きが高じて厩舎に就職した
同級生が私の知る限り二名おりました
(馬の聖地があまりに近かったか
らでしょうか)。それから研究室
の後輩に、仏師(仏像彫刻家)にな
るため、卒業後、奈良の名工に弟子
入りしたのもおりました。今では
音楽家や芸術家として生きている同
窓生もいます。こういった立命館ら
しい? 思い切りの良さを目の当たり
にして、自分のチャレンジ魂に発破
をかけることもありました。ここま
で振れ幅の大きい異分野に飛び込ん
でいく学生は、私の経験した国立大
学ではあまり見かけません。立命館
の「立命」の名は、「孟子」の「尽心
章句」に由来し、立命館は「学問を
通じて、自らの人生を切り拓く修養
の場」を意味するそうです(大学HP
より)。専門分野を追求するにせ
よ、異分野に挑戦するにせよ、立命
館にその開拓精神が受け継がれてい
くことを願ってやみません。社会の
情勢や構造が大きく変化していく中、
安全・安心な地域・国土づくりを担
う人材を育てる教育者として、また
研究者として、「立命魂」を胸に私
自身も精進していきたいと思いま

土木の仕事に携わって



京都支部
荒田真由美
平成十三年卒

昨年、リクルートをする機会があ
りました。私は京都府の土木職員と
して採用され十五年目になりますが、
最近はリクルートに行っても土木職
への希望者が少ないと感じています。
やはり、建設業には「環境破壊」
「税金の無駄遣い」等々ネガティブ
なイメージが付きまとうからでしょ
うか。大学でも、土木のイメージが

悪いためか、学生が離れないよう、「土木工学科」という名称を「地球デザイン」や「都市デザイン」等名称を変更するところが増え、「土木」という名称が消えつつあると聞きます。元々、私も「土木工学科」卒ではなく、どちらかと言うと都市計画を希望していました。しかし、公務員の土木職員として働き、土木のイメージは変わりました。

私は、今まで公園、道路、河川と様々な分野に携わりました。土木職員の仕事は、予算の執行管理や現場での監督業務等が主な仕事だと思っていました。それが、それ以外にも色々な仕事に携わり、「こんな仕事もあるのか。」と驚きと、やりがいを感じています。

特に、公園事業に携わった時に「土木職員の仕事」のイメージは変わりました。

都市公園事業に携わった時、私は公園を核とした地域間交流の計画を、国や関係市町村と連携して進めていく仕事を担当しました。まずこの公園の魅力を知ってもらうと、国、府、市町村が連携し、地元観光協会や企業へも協力していただき、イベントを開催しました。イベント開催は、公園整備を進める上で利用者のニーズを把握すること、イベントを定着させることで、公園の利活用につなげることが目的であり、イベントの継続的な開催、公園の利活用や必要な機能の検討に頭を悩ます毎日でした。この仕事を通して、いいものをつくるには、技術力だけでなく、観光振興や地域活性化等のソフト面の視野が必要であることを学びました。

また、山砂利採取跡地の公園整備に携わった際には、公園のハード整備だけでなく、里山を再生するため、地元産のどんぐりを拾い、苗を育て、げ山に植えるという里山再生プロジェクトを担当しました。この公園は、府民協働によりつくる公園として、地元のボランティアを募り、苗の育成や植樹を進めています。ボラ

ンティアには様々な経歴の方がおり、その人たちの人脈から、地元幼稚園、小中学校、企業等が里山再生活動に参加するようになり、今でも活動は続いています。こういった取り組みが、公園の整備だけでなく、環境教育や福祉にもつながっており、進め方次第で土木は色々な分野と連携できることを学びました。

現在は道路事業に携わっており、今年度から「道の駅」を担当することになりました。「道の駅」は元々道路利用者の休憩施設として整備されていきましたが、今は地域活性化、観光振興の拠点として注目されています。「道の駅」は市町村と道路管理者が連携して整備を行うことになっており、「道の駅」にどのような機能をもつてくるかは、その地域のまちづくりをどうするべきかに繋がるので、技術力だけでなく、やわらかい頭が必要だと感じており、これまでの経験も生かして取り組みたいと考えています。

担当する仕事には巡り合わせがありますが、私は先に述べたような仕事に携わり、「土木」は、利用者や地域の方が「こんな地域になったらしいな」という思いを形にできる魅力的な仕事だと感じています。

せっかく魅力的な仕事なのに、「土木」のマイナスイメージが払拭しきれないために、中身が分からず敬遠してしまう学生が多いのは残念だと感じます。

私は、まだまだ土木の経験値は浅いですが、今後も浅いなりに土木の魅力を発信していきたいと思っています。



和歌山支部
松下 拓介
平成二十五年卒

社会人四年目を迎えて

私は立命館大学理工学部都市システム工学科を平成二十五年三月に卒業し、和歌山県に入庁しました。

あつという間に四年目を迎えております。入庁後三年間は道路に係る業務でしたが、四年目の異動で、現在の河川課に配属となりました。

現在は、和歌山県内河川の河川整備基本方針や河川整備計画の策定に携わっており、河川環境の整備と保全を求める国民のニーズに的確に応え、河川の特性と地域の風土・文化等の実情に応じた河川整備の推進をおこなっております。業務のなかでは卒業研究で実施したような河川氾濫解析に係る業務もあり、もう少し学生時代に勉強しておけばよかったなと後悔しております。当時の研究テーマは、「平成二十三年台風十二号における日高川の氾濫解析」でした。この研究題材があると知った私は、即決でこれを研究テーマにしようと思えました。この研究に携わることができ、とても恵まれていたと痛感しております。現地調査にも何度か行かせていただきましたが、想像以上の被害状況で自然災害の恐ろしさを実感しました。今となっては、立場も変わり、考え方や思想などのアプローチの方法も異なりますが、研究の中で様々な経験を得られたことは、今の私にとってもプラスにはたらくております。

私自身社会人四年目でまだまだ未熟者ですが、これから多くのことを経験し成長すること、やっとな社会に貢献できると思っております。

最後に、この場をお借りいたしまして、立命館大学在学時にお世話になりました教授の先生や同じ学部の仲間たち、また日頃お世話になっている立命館大学OBの方々に感謝申し上げます。今後、一社会人として日々成長し皆様に恩返しできるように努力してまいります。

建設会総会・特別講演会・懇親会開催

第18回建設会総会・講演会・懇親会を下記の要領にて開催いたします。ご多忙のところ誠に恐縮ではございますが、万事お繰り合わせの上、多数ご参加を戴きますようお願い申し上げます。

記

【日時】2016年10月8日(土) 15時～19時

【場所】京都タワーホテル

[京都市下京区烏丸通七条下ル JR 京都駅正面]

[Tel. (075) 361-3212]

【会費】10,000円(平成18年卒・19年卒:5,000円)

【次第】15:00～総会 16:15～特別講演会 17:30～懇親会

●参加申し込みは前納とさせていただきます(9月16日締切り)。

●同封の総会専用払込票にて、郵便局よりお振り込み下さい。

※詳細につきましては、別紙のお知らせをご参照下さい。

立命館大学技術士会からのお知らせ

★同窓の技術士および技術士資格にチャレンジされる方は、当会へご連絡ください。

①技術士ネットワークの拡大と同窓・後輩支援として情報発信を行います。

②技術士資格挑戦者への試験対策支援を実施中です。

★『土木!この素敵な世界』をテーマとした電子書籍をAmazon Kindleストアで好評発売中。立命卒土木技術者達の力作です。ぜひ読んでみてください。

★当技術士会の活動に、ご協力いただくためにも技術士資格取得者の方々に、当会に技術士資格情報をお知らせ願いたいと思います。(当会への入会は問いません。)

★当技術士会の目的に賛同いただき入会をご希望の方は、ご連絡をお待ちしております。みなさんと一緒に、技術者の地位向上と社会への貢献に微力ながら前進させたいと願っております。

平成28(2016)年7月 立命館大学技術士会幹事会

事務局連絡先:企画・窓口担当 E-Mail: rits.kikaku.mado@gmail.com

技術士会ホームページ (http://alumni.ritsumei.jp/gijutsusikai/)

事務局より

お知らせ

※8月12日～18日まで、大学一斉休暇となります。何とぞご了承下さい。

▶名簿お取扱いについて

名簿は、会員の皆様の大切な個人情報を掲載しております。名簿をお持ちの会員様は、その保管およびお取扱いには十分ご注意くださいようお願い致します(転売厳禁)。

なお、ご不要になった名簿につきましては、お手数ですが焼却あるいはシュレッダー処分をしていただけますようお願い致します。

▶CDRによる名簿発行について

平成28年7月16日に建設会役員会が開催されまして、今後の名簿発行に関する重要な議決が行われました。12月に発行される建設会名簿はCDR形式に一本化され、紙媒体での名簿は事務局用等必要最小限度の発行になります。この措置は第一義的には建設会の財務状況の改善を目指したのですが、CDRはナンバリングし、基本的にコピーや印刷が不可能な形式になっていますので、個人情報の漏えい防止という副次的な効果も一定期待できます。

■会員登録データ

立命館建設会会員の皆様の名簿を隔年発行しておりますが、そのもとになるデータベースは、皆様からのお申し出に応じて適宜更新しております。このデータベースは、年会報の送付、総会などの各種案内、また、各支部からの連絡、会費請求の事務などに利用しております。

今回送付いたしました年会報に同封されている「会員登録データ」文書上段に記載されているデータをご確認いただき、修正や変更がございましたら8月末日までに建設会事務局までご連絡下さい。

また、今年12月初旬に「平成28年度版 建設会会員名簿」を発行予定です。名簿は、会費を納入いただいている会員を対象に送付させていただきます(2年に1度の発行ですので、平成27年度・28年度分の会費納入者、ならびに終身会員に送付させていただきます)。平成27年度分の会費をまだお納めでない方は、同封

の振込用紙にて2年分の会費(平成27・28年度分:6,000円)を納入いただきますと、発行と同時に名簿をお送り致します。

なお、名簿は、上述しましたように、今回から基本的にCDR版での発行となります。

■建設会年会費ご納入のお願い

立命館大学建設会皆様は皆様の年会費で運営されています。

2016年度会費のご納入をお願い致します(年会費:3,000円)。

また、会費ご納入につきましては「郵便局の自動振替システム」をご利用いただくこともできます。お気軽に建設会事務局までお問い合わせ下さい。

なお、銀行からのお振込も可能です(ゆうちょ銀行109(イチゼロキユウ)支店、当座0000884)。お振込の際、お手数ですが氏名の前に10桁のお問合せ番号をご記入いただくか、お名前・お問合せ番号・お振込日を下記アドレスまでご連絡下さい(振込手数料は申し訳ございませんが、ご負担願います)。

建設会事務局

〒525-8577 滋賀県草津市野路東 1-1-1
立命館大学理工学部環境都市系事務室内(担当:山元)
TEL:077-561-4911 FAX:077-561-2667

http://www.ritsumei.ac.jp/se/rv/ob.html
E-mail: kenstkai@st.ritsumei.ac.jp
会費払込郵便振替口座:02 大阪 01080-1-884